

# 令和3年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

## ①豊かな心をはぐくむ教育の推進

<b>1 一人一人の児童生徒の尊重</b>	<b>2 友達への思いやり</b>	<b>3 道徳・心の教育の充実</b>
学校は、一人一人の子どもを大切にされた指導や対応ができていますか。	子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。	学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。(礼儀、生命尊重、思いやりなど)
【学校から】○「一人一人を大切にされた指導や対応」の項目では、保護者はほぼ昨年と変わらず、教職員は「そう思う」の評価が昨年に比べ、倍近くの60%まで伸びた。ただ児童の「そう思わない」の評価が昨年より若干増加している点は、職員間で考察を行い、改善を図る。○「友だちとなかよくしているか」の項目では、保護者の「そう思わない」が僅かではあるが出現し、児童の「そう思う」の評価も若干減少している。しかしながら、教職員の評価は「そう思う」が昨年に比べると増加し、「どちらかといえば、そう思わない」「そう思わない」の評価は無かった。保護者、児童と教職員の間に「なかよく」の捉え方にずれが生じていると考えられる。○道徳・心の教育の充実では、保護者はほぼ昨年と変わらないが、教職員は「そう思う」の評価が昨年の30%から70%まで増加し、コロナ禍における人権教育や日頃の道徳、心の教育が実践できた結果だと思われる。今後の更なる充実を図りたい。		

## ②確かな学力を育む教育の推進

<b>4 意欲的な学習態度</b>	<b>5 授業力向上</b>	<b>6 タブレット活用</b>
子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。	先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。	子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。
【学校から】○「意欲的な態度」では、保護者、教職員とも昨年度と変わらない評価だが、児童は「そう思う」が減り、昨年度は無かった「そう思わない」が出現している。子どもが自分で「意欲的ではなかった」と評価することは問題であり、児童から聞き取りを行う等、原因を探り、改善を図っていく。○「わかる授業、楽しい授業づくり」に関しては、教職員の評価は昨年に比べ上がっているのに、保護者、児童の「そう思う」の評価は少し下がった。ただ児童と教職員の評価はほぼ同じである。この結果を真摯に受け止め、下がった原因を追究し、更なる「わかる授業・楽しい授業」へと向かいたい。○「タブレット端末の活用」の項目は、児童、教職員の「そう思う」の評価はほぼ同じであるが、保護者は40%に落ち込み、「どちらかといえば、そう思わない」が10数%存在する。家庭での使っている様子からの判断だと思ふ。タブレットは原則家庭への持ち帰っているが、そこでの効果的な活用法(タブレットならではの学習等)を探していきたい。		

## ③健やかな体を育む教育の推進

<b>7 健康づくり</b>	<b>①いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実</b>
子どもは、好き嫌いなく食事をし適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。	<b>8 児童生徒理解</b> 先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようとしていると思いますか。
【学校から】○昨年度とほぼ同じ評価となった。ただ、教職員の「そう思う」の評価はゼロだったが、今年度は20%近くに上がった。朝の健康観察カードや給食指導の見取り、保護者との連携において、細かな観察や指導ができた結果である。今後も学校と家庭が連携しながら、児童の更なる健康づくりを進めたい。	【学校から】○昨年度とほぼ同じ評価となり、「そう思う」「どちらか」と「そう思う」が三者とも8割を超えた。特に教職員を見ると、「そう思う」の昨年の40%弱から60%強へ、大きく伸びた。今年度の教職員での『ほめほめ週間』等の取組により、子どものよさを見つけることに繋がっている。今後も続けたい。

## ①いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実

<b>9 いじめや問題への対応</b>
学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。

## ②特別支援教育の推進

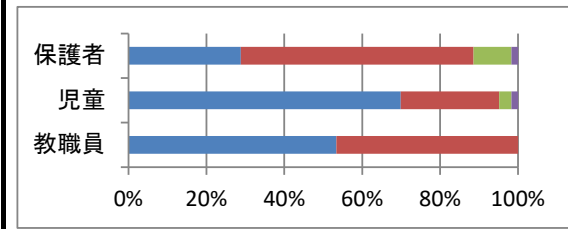
<b>10 学校の支援体制</b>	<b>11 共生社会を担う人材の育成</b>
学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。	「交流及び共同学習」等の実施は、相互理解の促進につながっていると思いますか。

【学校から】○「いじめや問題への対応」に関しては、保護者の「そう思わない」の評価が、昨年度と比較すると少し増えている。反して、教職員の「そう思う」は昨年度の評価と比べると10%ほど上がっている。この意識の違いに着目し、保護者がどのような対応を望んでいるのか、家庭訪問や懇談会、教育相談等の機会を活用しながら明らかにし、改善していきたい。○「学校の支援体制」に関しては、ほぼ昨年の評価と同様である。今後は校内での支援体制の更なる向上のため、保護者と連携を図りながら、現体制を見直し、改善していく。○「交流及び共同学習」に関しては、児童の評価が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」合わせると90%強を示した。児童自身が、そう感じていることは大変嬉しいことである。今後も教職員や保護者(大人)が、共生社会の理解をより深め、これから生き抜く子どもたちが確実に力(コミュニケーション力等)を付けるられるようにしていくことが大切である。実施方法の創意工夫をしていきたい。

## ①子どもたちの身近な安全対策の充実

### 12 安全と事故防止

学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。

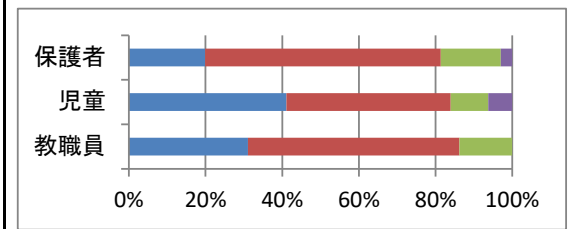


【学校から】○保護者と児童の評価は昨年度とほぼ同じであるが、教職員は「そう思う」が10%ほど増えた。今年度もコロナ禍の状況であり、感染状況を踏まえての感染防止対策やいろいろな場面での児童の安全、事故防止に対する意識が向上している。更なる意識高揚を目指し、安全教育を推進していく。

## ②最適な学習環境の整備

### 13 施設・設備の安全管理

学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。

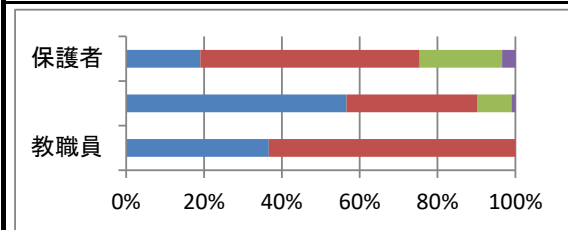


【学校から】○昨年度と比較すると、保護者の評価「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」が80%を超え、学校の取組が伝わっていると感じる。教職員の「そう思う」の評価が大きく伸びて(昨年度は10数%)おり、日頃の安全面への配慮が伺える。今後も整備できるところを洗い出し、更なる安全管理に努める。

## ③家庭・地域社会との連携強化

### 14 教育方針・目標の理解

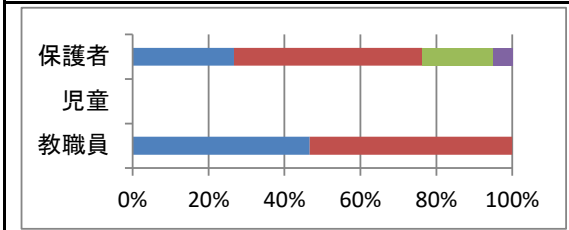
学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者地域にわかりやすく示していると思いますか。



【学校から】○教育方針・目標の項目では、保護者の評価は昨年と比べると、「そう思う」の割合が若干減ったが、ほぼ同様の評価である。教職員においては、昨年比では「そう思う」が3倍以上伸び、校長講話や学校便り、学期毎の反省等で浸透したものと受け取れる。「託小つ子100点満点」は知っているが、それが方針や目標に繋がっていると認識できるよう伝達方法の工夫に努める。○連携に関しては、教職員の「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」のみの評価となった。昨年度は「どちらかといえば、そう思わない」の評価もあったが、今年は連携が取れているという実感があつた。今後も家庭、地域との連携を十分に図っていききたい。

### 15 家庭や地域との連携協力

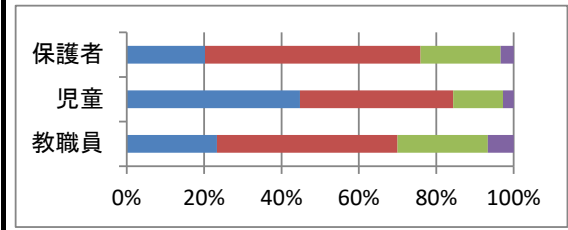
学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。



## 本校の教育

### 16 1

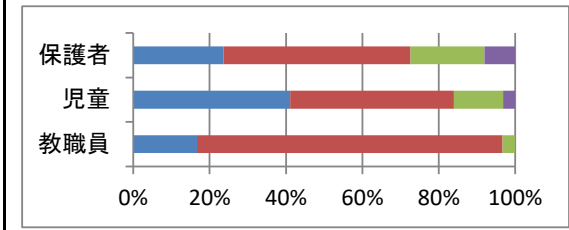
子供は、自分から進んであいさつをしていると思いますか。



【学校から】○あいさつは、今年度は「託小つ子100点満点」の1つの項目でもあり、日頃から繰り返し声掛けを続けている。児童の意識として「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」が80%を超え、進んでできているという認識が高い。保護者はその2つを合わせると80%弱、教職員は70%程度にとどまった。自分ではできているという意識だが、挨拶の相手や第三者から見れば、もう少しということだろう。もう少しの部分をもっと具体的に示しながら、改善を図りたい。○家庭学習の習慣は、保護者の「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の評価が昨年より少し下がった。「家庭学習」の捉え方は保護者により様々だと考えられるが、家庭での時間の使い方の指導、アドバイスなど学校としてできることは連携してやっていきたい。○「早寝・早起き・朝ごはん」については、昨年度に比べ保護者・児童の「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」が僅かに下がり、同じ認識である。ただ教職員の評価は、2つ合わせて90%を超え、昨年度より評価が上がった。更なる連携を図りたい。

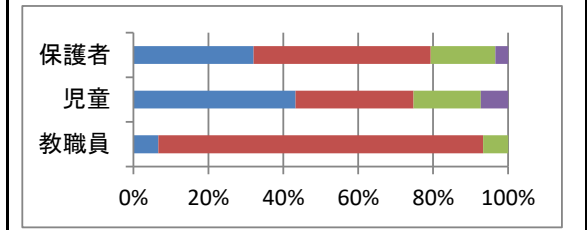
### 17 2

子供は、家庭学習の習慣が身に付いていますか。



### 18 3

子供は、「早寝・早起き・朝ごはん」ができていますか。



## 来年度の具体的な取り組みについて

○教育目標・方針については、学級・学校便り、PTA新聞や活動、諸団体との会合等、ありとあらゆる機会を通して、発信していく。学校の教育活動は全て、教育方針に則り、教育目標達成へ向けた活動であることを伝え、保護者や児童の認識向上に繋げる。  
 ○研修等を通して教師の指導力向上を図り、これからの時代に必要な資質を児童に育てていく。そのためには授業改善や一人1台タブレットの活用、体験的活動の充実等をしながら、児童に主体的、対話的に学んでいく姿勢を育てたい。これからの時代を生き抜く力を確実に育て、身に付けさせたい。  
 ○支援の必要な児童が増えてきた。学習支援員や校内支援委員会の取組を通して、細かいところの支援が行き届くようになった。また、保護者との連携も密にできている。今後もその流れを切らず、さらに充実した支援が行えるようPDCAサイクルでやっていく。  
 ○まだコロナ感染の心配がある中で、教育活動を計画・実施していかなければならない。児童の安全や健康を第一に、学校行事の精選やウィズコロナ時代の新しい教育活動を教職員全員で考え、実施していく。また同時に、保護者(家庭)や地域との連携を図り、教育活動を充実させていく。

## 学校関係者評価

○専科による授業、教科担任制による授業、タブレットを活用した授業など、いろんな学習内容や学習方法があつて、子供たちは興味や関心を持ち、意欲的に学習できていた。また、オンラインでの授業参加の様子も見ることができ、家にいながら学習できることに驚いた。その分、教師の準備や研修は大変だと思う。  
 ○タブレットの導入により、いつでもどこでも濃い内容の学習をすることができるが、視力の低下など健康面が心配であり、何でもタブレットに頼りすぎて自分で字を書かなくなるのではないかと懸念がある。字を書く学習にもしっかり取り組んでほしい。オンラインで学習している児童は、場に応じたけじめある態度で臨んでいるか心配もする。さらに、児童が互いに触れ合いながら学習するのはとても大事である。学習や運動に限らず人間関係などいろんな体験をする場として、学校の存在は大きいと感じる。  
 ○「あいさつ、返事、はきもの並べ、笑顔、会釈」の5つに取り組んでいることは素晴らしい。交通指導で出会ったとき、会釈をする児童がいるととてもうれしい気持ちになる。マスクで表情が見えにくい、会釈は行動に出るのでとても良い取り組みだと思う。トイレのスリッパがきちんと揃えてあつたし、学校全体が以前より整理整頓が行き届いているように感じた。  
 ○地域での催し物やかかわりがコロナ禍により減っており、加えて不審者情報も多く、気軽に子どもに声かけもづらい。そのため、地域での子供の様子が分かりにくい状況になっている。ごはんをきちんと食べていない、親の仕事がないなど、コロナ禍で子どもたちの生活に影響が出ていないか心配している。地域でも把握に努めていきたい。  
 ○運動会は、全学年参加でよかった。スムーズで機敏に動く児童の様子がすばらしく、午前中のみだったが、十分見ごたえのある運動会だった。児童の頑張る姿は、先生方の頑張りの反映だと感じた。コロナ対応や保護者対応等、本来の仕事以外のことが増加しているように思うが、授業を参観して改めて先生方の頑張りを実感することができた。